

(仮称) 浅草地区まちづくりビジョン

(素案)

25/7/1(火) 時点

ビジョンコンセプトストーリー

Q.

歴史があるまち浅草は、旧いのか。

浅草は歴史があるまちです。

資料をひもとくと、その始まりは飛鳥時代にまでさかのぼると言われ、以来、浅草は浅草寺の門前町として1400年にわたって人々に愛されてきました。

浅草が、歴史があるまちであることは疑いようがない事実ですが、ここでひとつの問いが浮かびます。

それは、歴史があるまち浅草は、旧いのかという問いです。

実は、浅草は旧く見えるようで、常に新しいことを取り入れ、変化してきたまちです。

時代によって変化する、愛されるまちの在り方。

これからも浅草を、
まちのみなさまにも、まちを訪れるみなさまにも
ますます愛されるまちにしていきたい。

本書では、そんな思いを込めて、
これから20年後を見据えた、まちのビジョンやコンセプトを描きます。

A.

浅草は、常に変化を取り入れてきた
歴史がある、新しいまち。

歴史がある、新しいまち浅草

STORY 20年後から語る浅草のまちものがたり

2047年の浅草は、浅草寺の門前町としての文化資源価値がますます高まり、その独特の文化を求めて国内外から人々が集まるまちになっています。変わらずたくさんの人が集まるまち・浅草は、この20年間の取り組みによって、「まちづくりの理想形」として、たびたび話題に挙がるほどになりました。

まちに住む人から見た浅草

浅草は、昔と比べるとずいぶん過ごしやすくなりました。かつての浅草は、まちの一部に人が集中していて、浅草寺周辺はまるで混雑時の電車に乗っているようでした。観光客が集まるエリアは避けていましたし、住んでいるまちなのに、人が多すぎて自分たちのまちではないような気持ちになることもしばしば。今では、魅力的な文化拠点が点在するようになり、たくさんの人が訪れている割に混んでいない、過ごしやすいまちになりました。

昔は観光地に住むと大変だねと心配されることもありましたが、そんなことはありません。浅草は楽しい時間を過ごすまちですから、行き交う人もみな笑顔。粋な下町人情を感じるまちの様子を見ると、なんだかこちらもいい気分になってきます。

ここ20年の取り組みでまちが快適になり、みんなの心にもずいぶん余裕が出てきたように感じます。浅草の文化を際立たせる試みの中で、浅草六区を中心に娯楽施設が増えました。どこでも娯楽にアクセスできる時代と言われて久しいですが、こんなに「本物」を感じる娯楽が楽しめるまちは、浅草を置いてほかにありません。

浅草には多面的な魅力があります。少し歩くとまちの景色がめまぐるしく変わります。観光・産業・商業・芸能そして隅田川の自然…。時間軸という観点でも浅草は多面的。一年を通して地域行事があり、そのたび季節の移ろいを感じさせてくれます。

歴史があるからこそ、ほかのまちには真似できないオリジナリティがあり、その唯一性を求めて「このまちに住みたい」という若者も集まってきています。まちを支える若い世代が集まってきているのも、浅草がまちづくりの理想形として注目される理由のひとつですね。

まちを訪れる人から見た浅草

浅草はまず、入口からしてすばらしいまちです。隅田川から浅草に向かう小さな船旅は、特別な気分が味わえます。デッキに出て、気持ちいい風と太陽を浴びながら北へ進み、すれ違う船の乗客が見えると、こちらもよりいっそう心が踊ります。この20年で隅田川の水上交通はその価値が見直され、ずいぶん多くの船が行き交うようになりました。

江戸・東京の人々の暮らしに想いを馳せて景色を眺めていると、あっという間に浅草の船着き場に到着します。そこには広い空と豊かな水辺が広がっていて、ここでしばらく時間を過ごしたくなります。この水辺は、まちづくりを研究する世界中の有識者が視察に訪れるほどレベルが高く、これだけ美しい景観を持ちながら、災害対策にもなっているというから驚きです。

また、浅草は多くの人が日常的に利用する鉄道も特別です。駅には、このまちらしい演出が施され、「いよいよ浅草に来たな」という気持ちにさせてくれます。かつて、使い勝手が悪いと言われた地下空間も、今は見る影もありません。バリアフリーが施され、誘導サインもわかりやすく、各路線の行き来もしやすい。利便性とオリジナリティが見事に融合したまちの入口になっています。

雷門・仲見世通り・浅草寺…。古くから続く門前町には、今日も活気と下町情緒で満ちています。長年浅草で商売をされている方からまちの歴史や見所を教えてもらったりできるのは、まさに浅草ならではの「粋な買い物体験」だと感じます。

まちの中心部を楽しんだ後は、観光情報にアクセスして、周囲のエリアを楽しみます。近くであれば歩いて安全に行けますし、少し離れたエリアでも、さまざまなモビリティがあるので安心です。まちの情報や中心部以外のエリアにアクセスしやすくなったのも、この20年の大きな変化。エリアごとに特色があり、年中地域行事をやっている浅草は、訪れるたびに新しい発見と出会えるまちですね。

<プロローグ>

ビジョンコンセプトストーリー	1
----------------	---

I (仮称)浅草地区まちづくりビジョンについて 6

ビジョン策定の背景と目的、位置づけ	7
ビジョンの対象エリア	8
ビジョンで大切にしたい視点	9

II 浅草の未来 10

浅草地区 未来のまちの姿	11
地区内の回遊	12
まちづくりのコンセプト	13

III 実現に向けた戦略 14

まちづくりのコンセプトから導かれる戦略	16
快適性を磨き上げる ー戦略1～3	17
人・まちを結わえる ー戦略4～6	19
文化を際立たせる ー戦略7～9	21

IV まちづくりプログラム 24

まちづくりプログラムの設定箇所	26
①歩きやすい空間の拡充プログラム	27
②新たな回遊拠点の創出プログラム	29
③歴史を紡ぐ軸の創出プログラム	31
④賑わいの拠点の発展プログラム	33
まちづくりの「アイデア」	35

<エピローグ>

※浅草の人にフォーカスした編集後記 (※調整中)

(白紙)

I (仮称) 浅草地区まちづくりビジョンについて

この章では、
ビジョンの位置づけや対象エリア、
及び大事にしたい視点を整理します。

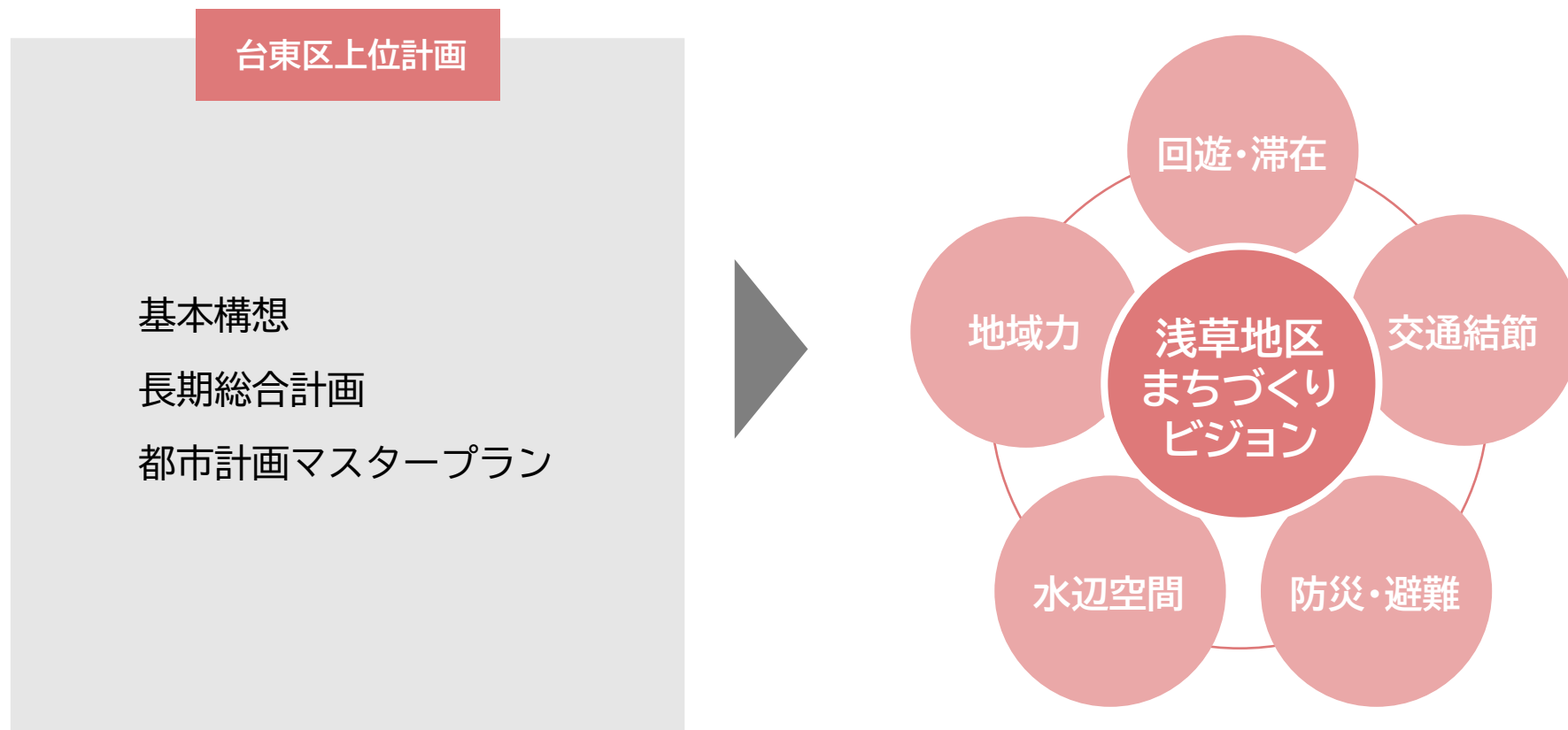
ビジョン策定の背景と目的、位置づけ

背景と目的、位置づけ

浅草地区では、平成19年6月に「浅草地域まちづくり総合ビジョン」を策定し、さまざまなプロジェクトを推進してきました。

豊かな歴史と文化を有する、日本を代表する観光地として発展していますが、東京スカイツリー開業や外国人を含む観光客の増加、さらにはコロナ禍等により、本地区を取り巻く社会経済状況が大きく変化してきました。

このような状況を踏まえ、今後のまちづくりの方向性を示す「(仮称)浅草地区まちづくりビジョン (以下、「ビジョン」)」を策定し、浅草の多彩な資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていきます。ビジョンは、台東区の上位・関連計画との連携も図り、短期・中長期的な「道しるべ」を目指します。

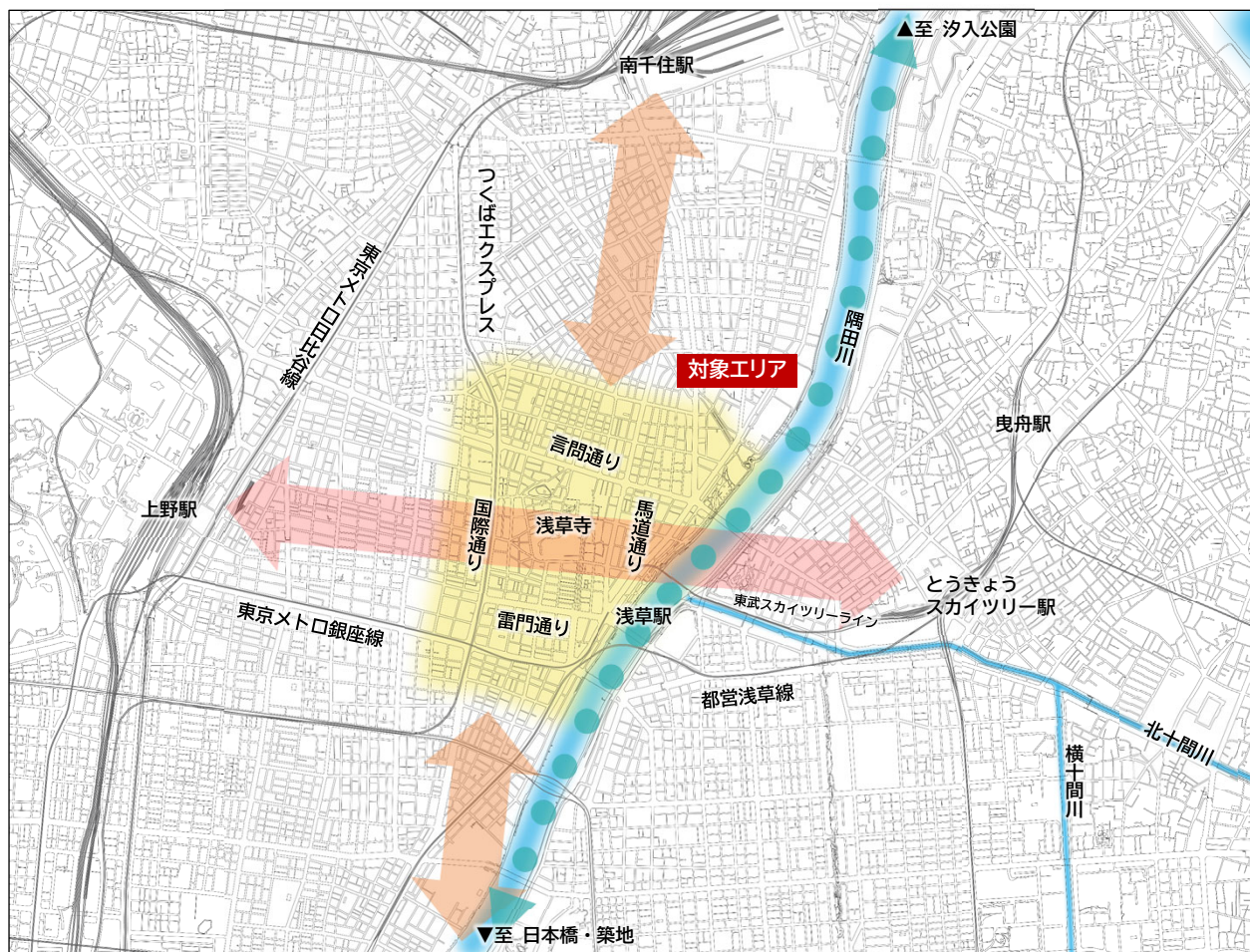


ビジョンの対象エリア

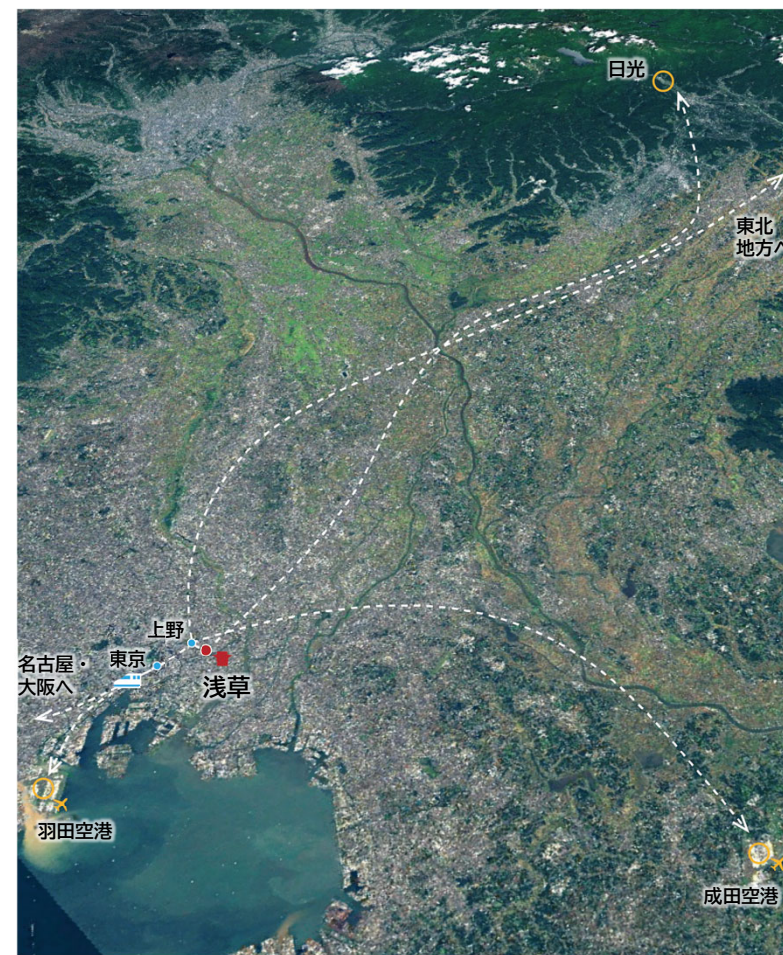
ビジョンの対象エリア

対象エリアは、浅草地区の中心部とその周辺地域を含めた、概ね下図の赤枠の範囲とします。

対象エリアには多様な方面から鉄道が乗り入れており、海辺にもつながる舟運も活用することで、どこからでも・どこにでも行きやすい、広域的なアクセス性が期待できます。また、羽田空港・成田空港といった国際玄関口からのアクセス性も良く、同じく世界的な観光地である日光にも行きやすい立地にあります。



▲ビジョンの対象エリア



▲浅草地区の広域的な位置関係 (地理院地図/GSI Maps (国土地理院) の航空写真を加工し作成)

ビジョンで大切にしたい視点

浅草のまちの成り立ち -地域主体によるまちの発展-

浅草地区は、628年に創建された浅草寺の門前町として、多くの職人や商人が住むまちとして発展しました。江戸期になると、浅草は江戸市街地に吸収され、参詣・行楽・歓楽を目的とした人々が溢れるようになります。また、明治期に入ると、浅草寺の寺領が公園地として整備され、浅草公園第六区が誕生します。見世物小屋の移転により、興行街として発展し、大正時代には映画館や演芸場等の娯楽文化の発信拠点となります。しかしながら、1923年の関東大震災により、現在の浅草地区が位置する浅草区では、72%の家屋が焼失したとされており、その後「帝都復興計画」に基づき土地区画整理事業が実施され、現在とほぼ同じ街路網が形成されました。

昭和初期以降は映画館や劇場が林立し、一大歓楽街として隆盛を誇り、1960年頃までは盛大な活気を見せました。しかし、1964年東京オリンピック後にカラーテレビが普及すると娯楽が多様化し、映画人気が下火になるとともに、浅草六区の勢いも失われていきました。

苦しい衰退期を乗り越えながら、地域が主体となり、サンバカーニバル等による継続的なまちおこしが推進され、ROXやビューホテルの進出、つくばエクスプレスの開通、地区計画による六区興行街の再生等により、外国人観光客をはじめ多くの人々が訪れるまちとなっています。

2020年代に入り、コロナ禍で再び苦しんだ時期もありましたが、外出自粛が落ち着きを見せるとともに、再び多くの人々が訪れ、活気を取り戻しています。

浅草地区のまちづくりで大切にしたい視点

浅草地区では、地域が主体となり、活気あるまちを築き上げてきました。戦後の衰退期を乗り越えて、現在もまちに活気があるのは、浅草の人々の「地域を盛り上げたい」という想いの積み重ねによるものと言えます。将来にわたりこの想いを育んでいくためにも、ビジョンでは、まちの皆さまとの話し合いを踏まえ、次の視点を大切にしていきたいと思います。



▲浅草六区の映画街（1932年）
（出典：『大東京三十五區』，東京都立中央図書館）



▲サンバカーニバル（出典：ビジュアル台東区史）

回遊を生み出す拠点をつくる

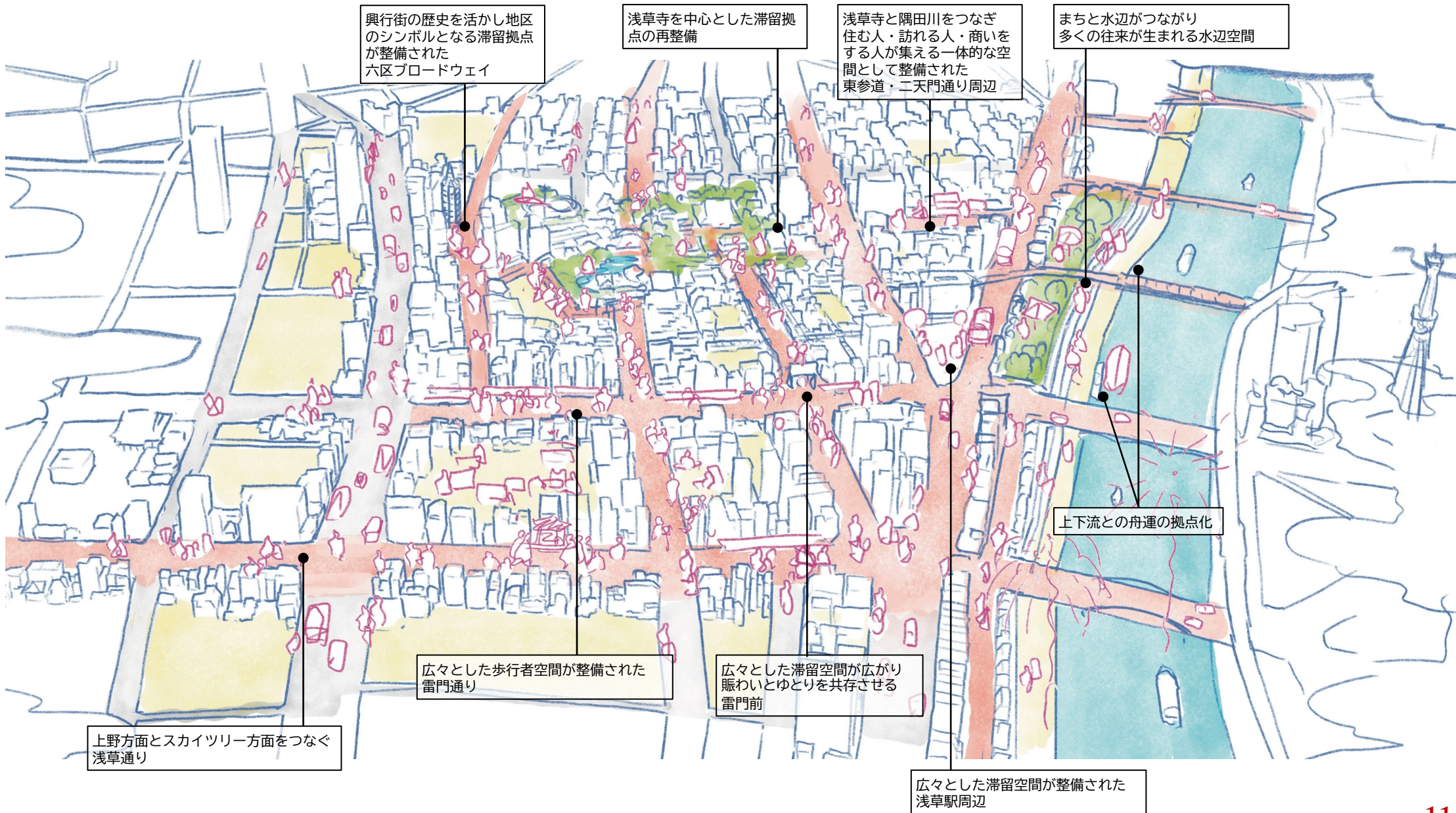
賑わいの広がりを生み出す

「住むまち」として価値を高める

Ⅱ 浅草の未来

この章では、
浅草地区の未来のまちの姿とまちなかの回遊のあり方を示すとともに、
まちの皆さんの想いを積み上げながら「まちづくりのコンセプト」を
整理します。

歴史がある、新しいまち浅草



地区内の回遊

浅草には歴史のある魅力が多く存在しており、訪れる人は各々の目的地に向かっていきます。

人が多く集まる場所では空間を広く確保し、人通りが疎らな場所では魅力を増やしていき、これらの取り組みを紡いでいくことで、浅草のまちが、にぎわい、つながります。

密度

高

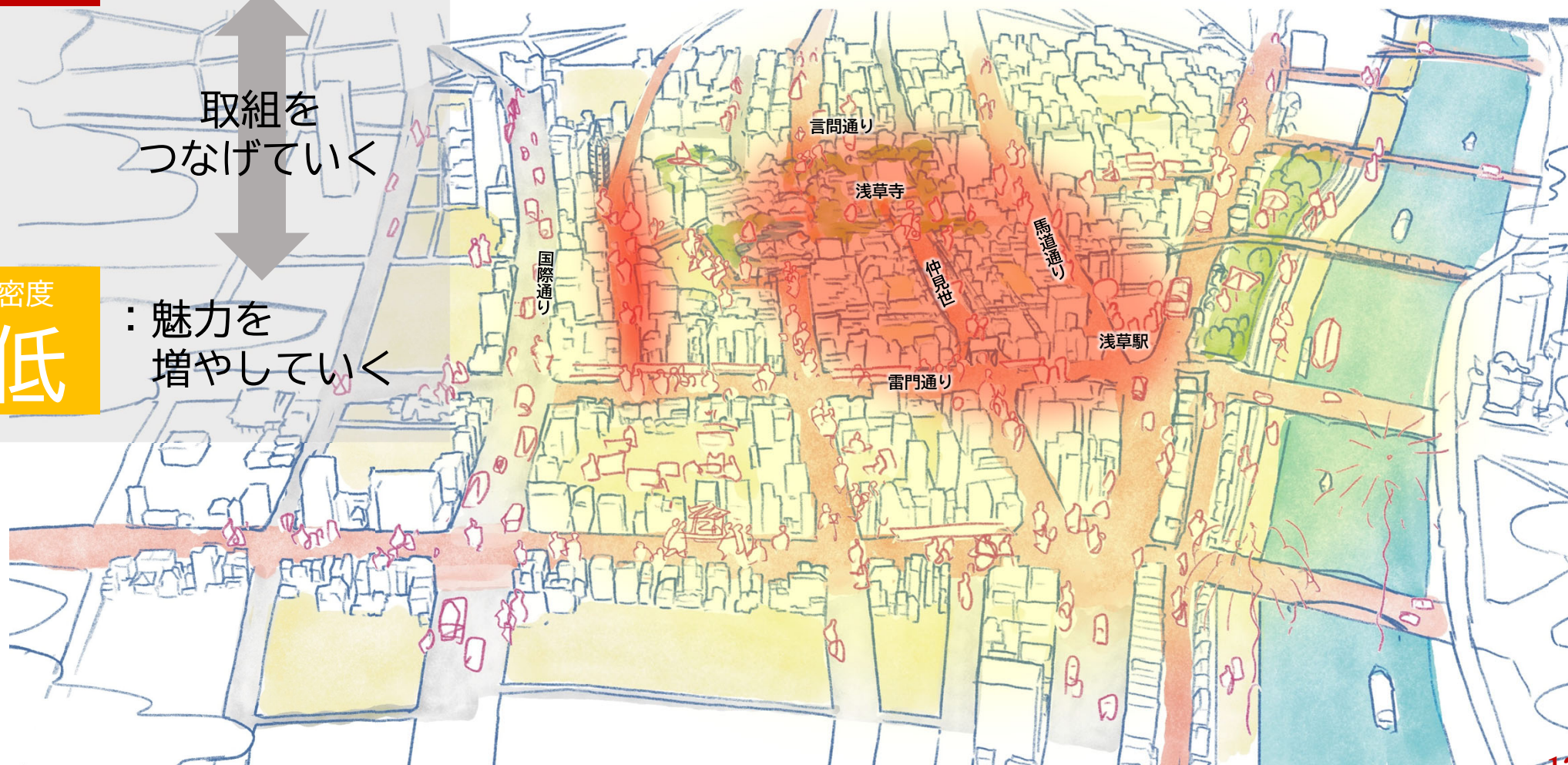
：空間を
増やしていく

取組を
つなげていく

密度

低

：魅力を
増やしていく



まちづくりのコンセプト

歴史が紡がれてきた浅草で、新しいまちを実現していくため、浅草の環境、通り・軸、資源・場所を育むことが必要です。
そのためのまちの皆さんの想いを積み上げ、「まちづくりのコンセプト」を言葉にしました。

<ワークショップ等を踏まえたコンセプトづくりに向けたキーワード抽出>

育む要素① 環境

こころが躍る
くらし・なりわい・ふれあいを生み出す

育む要素② 通り・軸

下町の風情があるまちなみや周辺地区との
繋がりが、人々の往来を促す

育む要素③ 資源・場所

浅草寺を中心とした門前町や都市の発展過程の
歴史・文化資源の価値を高める

資源の魅力を活かす

人々が共存し、互いに居心地の良さや
交流・活動が生まれるまちをつくる

隅田川や目抜き通りの
回遊・滞留機能を強化する

観光・商売・娯楽により賑わいを高め、
巡りたくなる盛り場をつくる

新たな魅力をつくる

まちづくりのコンセプト

快適性を
磨き上げる

人・まちを
結わえる

文化を
際立たせる

III 実現に向けた戦略

この章では、
前章の「まちづくりのコンセプト」に基づいた“戦略”を掲げ、
その戦略を実現するための手段である“取り組み”について
整理します。

(白紙)

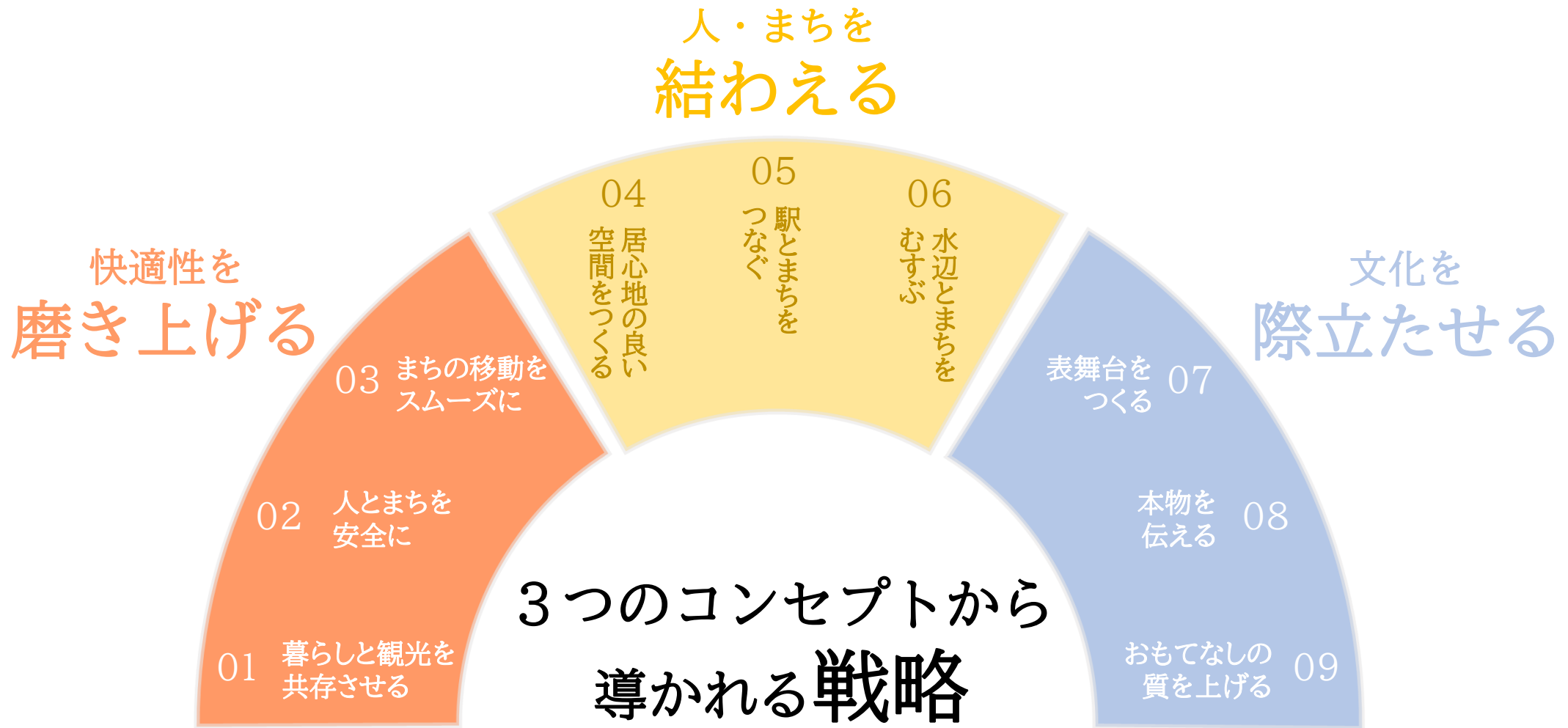
まちづくりのコンセプトから導かれる戦略

魅力ある空間の質や人の心（ホスピタリティ）を向上させ、快適性を磨き上げること。

地区内の街路や軸を空間的・精神的につなぎ、人・まちを結わえること。

まちのなかに散りばめられた魅力を明確にし、文化を際立たせること。

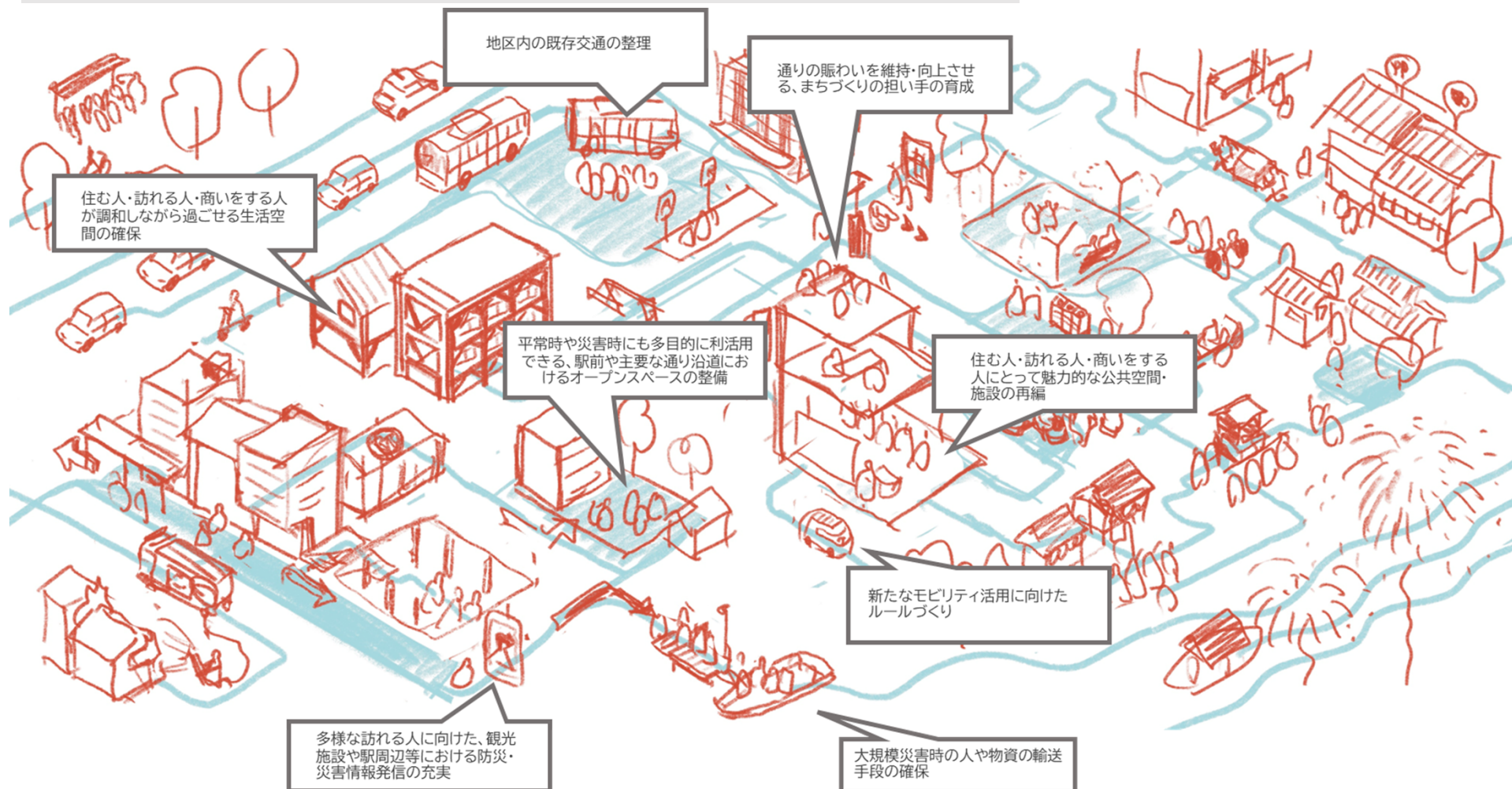
これら3つのコンセプトに基づいた戦略を9つ掲げ、まちづくりの取り組みを推進していきます。



快適性を磨き上げる

将来像を実現したまちの姿

- 四季の行事や歴史を継承し、浅草で紡がれてきた生き生きとした暮らしや営みが身近にあるまち
- 新たな価値観を柔軟に受け入れ、住む人・訪れる人・商いをする人が調和して快適に過ごせるまち
- 訪れる人にも優しく、国際観光拠点にふさわしい災害時にも不安感0のまち



【イラスト作図の方向性】

- 後述の取り組みの要素を、人物・建物・乗り物等のスケールで表現
- 各要素をつなぐ経路・軌跡・関係性を線（パス）でつなげて表現
- 各取り組みの場所性は薄めて表現
- イラストの説明の吹き出しには、取り組みを想起させる内容を記載

戦略

1 暮らしと観光を共存させる

- 浅草に住む人・訪れる人・商いをする人が交流する取り組みを広げ、多様な担い手の育成を進めます。
- まちのにぎわいを持続的に支え更に高めるため、景観・地区計画・商店街等の地域ルールにより、計画的な建物更新・街並み保全を進めます。
- DXや先端技術・データ活用を進め、観光の快適性や暮らしの利便性の向上、地域サービス・観光産業の洗練を図ります。

実現に向けた取り組み

- 住む人・訪れる人・商いをする人が調和しながら過ごせる生活空間の確保
- 通りの賑わいを維持・向上させる、まちづくりの担い手の育成
- 商店街等における人と人がつながる機会の創出
- 暮らしや観光の快適性や利便性向上につながる、まちづくりデータ基盤の構築
- 住む人・訪れる人・商いをする人にとって魅力的な公共空間・施設の再編
- 通りや水辺空間の賑わいや維持管理に取り組むエリアマネジメントの活性化
- 浅草で起業したい人々がチャレンジできる機会の創出

戦略

2 人とまちを安全に

- 地上・地下のオープンスペースの拡充により、日常的な滞留や活動とともに、災害時の安全な避難場所としての機能を強化します。
- 建物のセットバックや沿道建築物の建替え誘導等と一体的に、防災空間や歩行者空間を拡充し、災害時の安全性や受入力を高めます。
- 有益な災害情報の発信体制の構築や、舟運等を活用した広域避難ネットワークの段階的整備、気候変動に対応したグリーンインフラの整備など、防災・減災のための取り組みを進めます。

実現に向けた取り組み

- 多様な訪れる人に向けた、観光施設や駅周辺等における防災・災害情報発信の充実
- 災害時における隅田川の舟運の活用
- 酷暑や豪雨等、近年の気候変動にも対応した、安全かつ快適な屋外空間の整備
- 平常時や災害時にも多目的に活用できる、駅前や主要な通り沿道におけるオープンスペースの整備
- 避難場所等へ安全かつスムーズに移動ができる通りの整備
- 都市基盤整備に合わせた、備蓄倉庫等の防災機能の充実

戦略

3 まちの移動をスムーズに

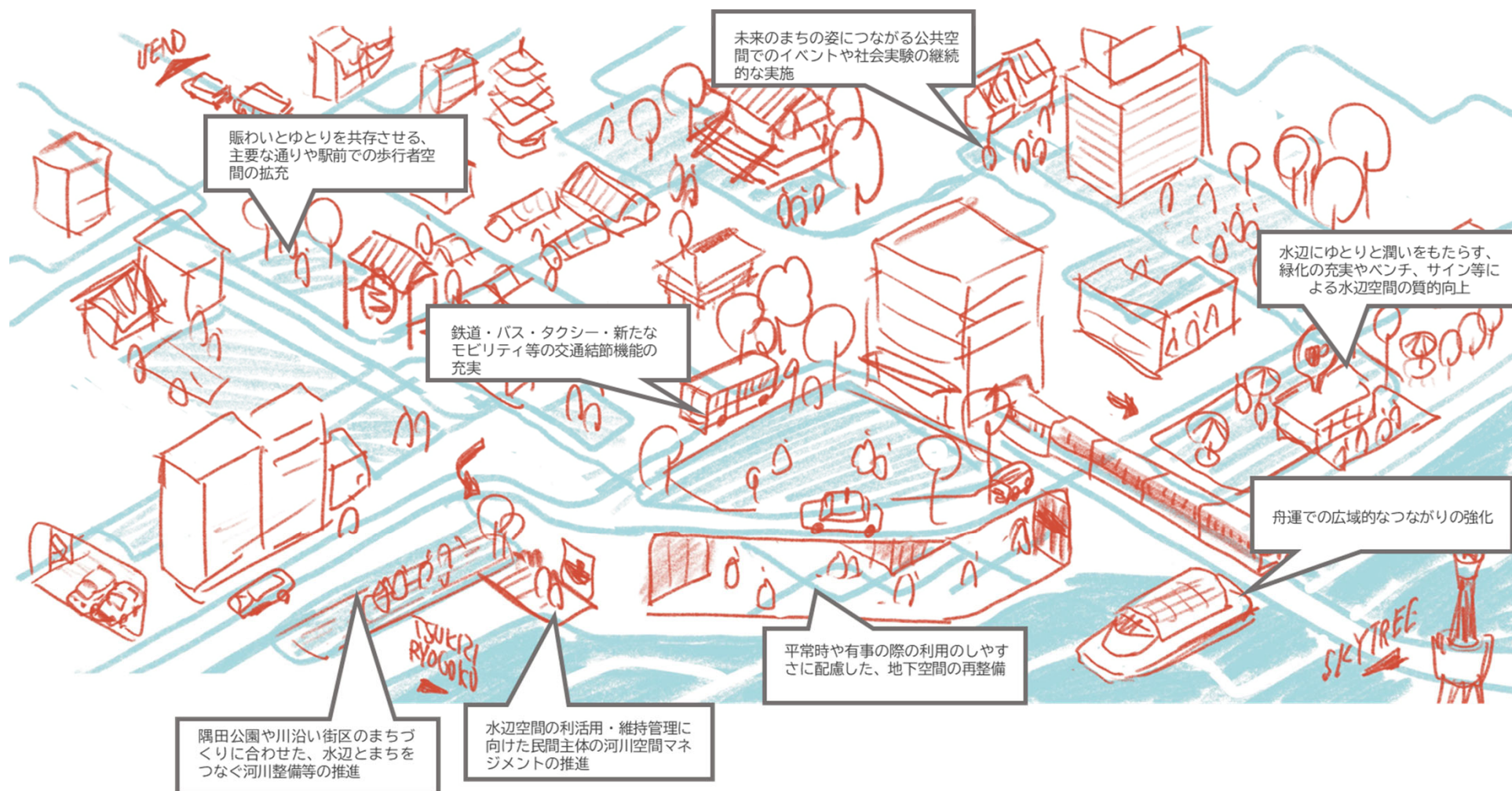
- 社会実験を重ね、新たなモビリティや移動サービスの段階的導入・実装を図ることで、利用者の多様なニーズに沿った移動手段の提供を進めます。
- 歩行者利用を主とした道路空間の形成に加え、浅草に住む人・訪れる人に対する自転車利用の促進に向けた取り組みを進め、誰もが歩きやすい環境を整えます。
- 路線バスやタクシー等の公共交通、舟運等の浅草ならではの移動手段との結びつきを強化します。

実現に向けた取り組み

- 地区内の既存交通の整理
- 新たなモビリティ活用に向けたルールづくり
- 周辺地域とのつながりを強化する、新しいモビリティ等を活用した交通ネットワークの形成
- 都市基盤整備に合わせた、観光バスや自転車等の都市施設の確保

将来像を実現したまちの姿

- 東西の回遊拠点が整備され、賑わいが地区内外に広がるまち
- 駅とまちが一体的につながり、誰もが分かりやすく使いやすい交通結節点があるまち
- 住む人・訪れる人・商いをする人がともに楽しめるような、安らぎと賑わいが調和する水辺空間が身近にあるまち



【イラスト作図の方向性】

- 後述の取り組みの要素を、人物・建物・乗り物等のスケールで表現
- 各要素をつなぐ経路・軌跡・関係性を線（パス）でつなげて表現
- 各取り組みの場所性は薄めて表現
- イラストの説明の吹き出しには、取り組みを想起させる内容を記載

戦略

4 居心地のよい空間をつくる

- イベントや社会実験を重ね、道路・広場・パブリックスペース等の利活用方法を検証しながら、歩いて楽しい歩行者空間や滞留空間の充実を段階的に進めます。
- 通りごとの個性を活かし、無電柱化や舗装・ファサードの美装化等、各場所の街並みや空間デザインに配慮した整備を進めます。
- 浅草の個性や雰囲気が残る建物や街並みを維持・保全し、多くの方にその歴史を感じてもらえるように配慮します。

実現に向けた取り組み

- 未来のまちの姿につながる公共空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 浅草の個性や文化を感じさせる建物や街並みの維持・保全
- 賑わいとゆとりを共存させる、主要な通りや駅前での歩行者空間の拡充
- 休憩や待合せなど多様なニーズに対応した滞留空間の充実
- 地区内外の個性ある資源に訪れたい、人々の往来や誘引性を高める設え
- ストーリー性を感じることができる商店街ファサードの整備

戦略

5 駅とまちをつなぐ

- まちづくりの進展にあわせて駅機能の更新を図り、鉄道駅と一体となった交通結節拠点の形成を進めます。
- 鉄道駅間やその他交通との乗換空間、地上・地下を一体的にバリアフリー・ネットワーク化し、利用者にとってシームレスな移動ができる空間を確保します。
- 歩行者にとって分かりやすく、行きたいところに移動しやすい地下空間の再整備を進めます。

実現に向けた取り組み

- まちづくりプログラムの推進協議会での検討
- 浅草3駅（東武・メトロ・都営）を中心とした、新たな都市基盤・回遊拠点整備の推進
- まちづくりに合わせた東武浅草駅の更新
- 鉄道・バス・タクシー・新たなモビリティ等の交通結節機能の充実
- 平常時や有事の際の利用のしやすさに配慮した、地下空間の再整備

戦略

6 水辺とまちをむすぶ

- 隅田川や隅田公園、川沿いのまちのつながりを意識した空間整備を進め、人々の往来を生み、さまざまな利用者による賑わいを創出します。
- 隅田公園や川沿い街区のまちづくりに合わせた堤防等の河川整備により、平常時も災害時も多くの人が集まれる拠点を創出します。
- 隅田川環境を感じながら、周辺のウォーターフロントにアクセスできるよう、舟運や防災船着場のさらなる利活用を進めます。

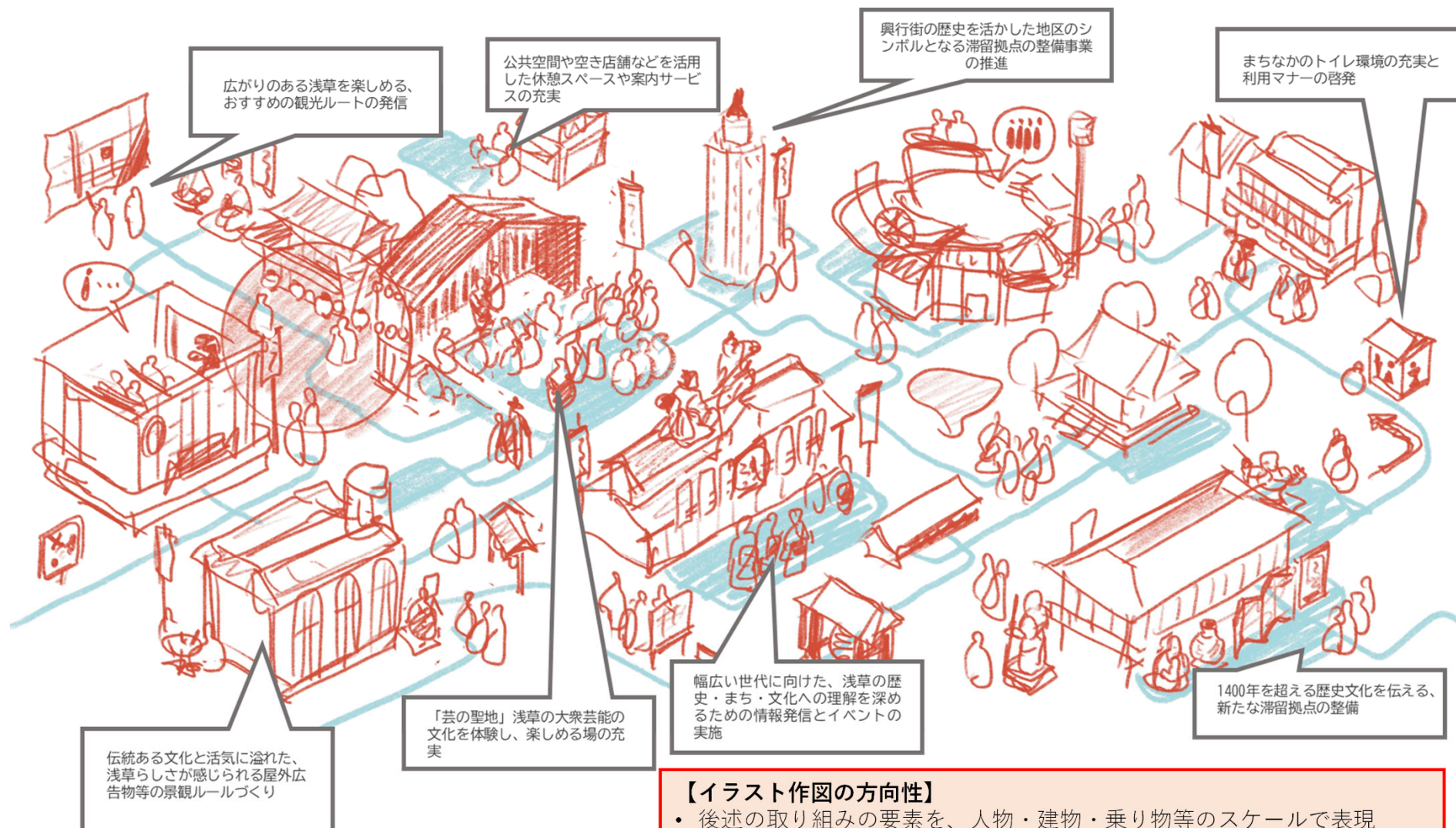
実現に向けた取り組み

- 水辺空間の利活用・維持管理に向けた民間主体の河川空間マネジメントの推進
- 水辺に居心地よく滞在できるイベント等との連携・PR促進
- 隅田川や川沿い街区のまちづくりに合わせた、水辺とまちをつなぐ河川整備等の推進
- 水辺に訪れたい、緑化の充実やベンチ、サイン等による水辺空間の質的向上
- 舟運での広域的なつながりの強化

文化を 際立たせる

将来像を実現したまちの姿

- 伝統と革新が調和し、国際観光拠点として国内外の多くの人が魅力を感じる多面的な文化とエンターテインメントがあるまち
- まちなみや地域資源の継承・活用を通じて、浅草に根付く歴史や文化や産業を大切にする心を伝えられるまち
- 浅草のまちにホスピタリティが溢れ、訪れる人を快適に受け入れることができるまち



【イラスト作図の方向性】

- 後述の取り組みの要素を、人物・建物・乗り物等のスケールで表現
- 各要素をつなぐ経路・軌跡・関係性を線（パス）でつなげて表現
- 各取り組みの場所性は薄めて表現
- イラストの説明の吹き出しには、取り組みを想起させる内容を記載

戦略

7 表舞台をつくる

- 浅草を訪れる方に、浅草独自の伝統・文化・コンテンツを生かした多様なイベント・体験プログラムを楽しんでもらうため、浅草寺をはじめとした文化資源を大切に育みながら、まちのブランド価値を高める場づくりを進めます。
- 浅草らしい文化や歴史、伝統を有するエリアでは、その景観や個性に配慮した空間整備・ルール導入等により、浅草にきたことをより感じさせる来訪体験を創出します。

実現に向けた取り組み

- 1400年を超える歴史文化を伝える、新たな滞留拠点の整備
- 伝統ある文化と活気に溢れた、浅草らしさが感じられる屋外広告物等の景観ルールづくり
- 生活に根付いた祭りやイベントに合わせて改変が可能となるまちの環境整備
- 興行街の歴史を活かした地区のシンボルとなる滞留拠点の整備事業の推進
- 「芸の聖地」浅草の大衆芸能の文化を体験し、楽しめる場の充実

戦略

8 本物を伝える

- 多くの人に浅草の歴史や伝統を知ってもらうため、浅草の歴史・文化・まちの魅力やストーリーをさまざまなメディア・手法で積極的に発信し、学びや発見の機会を提供します。
- 浅草を訪れる方が、希少性の高い体験を楽しんでもらえるように、「浅草でしかできない体験」を磨き上げ、国内外への戦略的プロモーションを進めます。

実現に向けた取り組み

- 幅広い世代に向けた、浅草の歴史・まち・文化への理解を深めるための情報発信とイベントの実施
- 付加価値の高いものづくり産業を支える環境整備
- 広がりのある浅草を楽しめる、おすすめの観光ルートの発信
- 住む人・訪れる人がともに堪能できる、環境変化に応じた個店力の強化

戦略

9 おもてなしの質を上げる

- 快適に観光してもらうための休憩施設や案内サービス、観光客の受入環境については、段階的かつ計画的な整備・充実に図ります。
- 住む人・訪れる人・商いをする人が充実した時間を過ごせるよう、快適に過ごすための衛生環境を整えつつ、地域と観光の共存に向けたマナー啓発を進めます。
- 浅草を訪れる人が、居心地よく各々の時間を過ごせるよう、混雑緩和の取り組みを進めます。

実現に向けた取り組み

- 公共空間や空き店舗などを活用した休憩スペースや案内サービスの充実
- まちなかのトイレ環境の充実と利用マナーの啓発
- オンライン観光案内・混雑情報の発信による歩行者空間の拡充
- ナイトタイムでの観光を促す滞留空間やコンテンツづくりの整備

(白紙)

IV まちづくりプログラム

この章では、
浅草地区における未来のまちの姿の実現に向けて
戦略的に実践する事項を「まちづくりプログラム」として整理します。
このプログラムの推進により、地区内の回遊・地区外への広がり
を促進していきます。

(白紙)

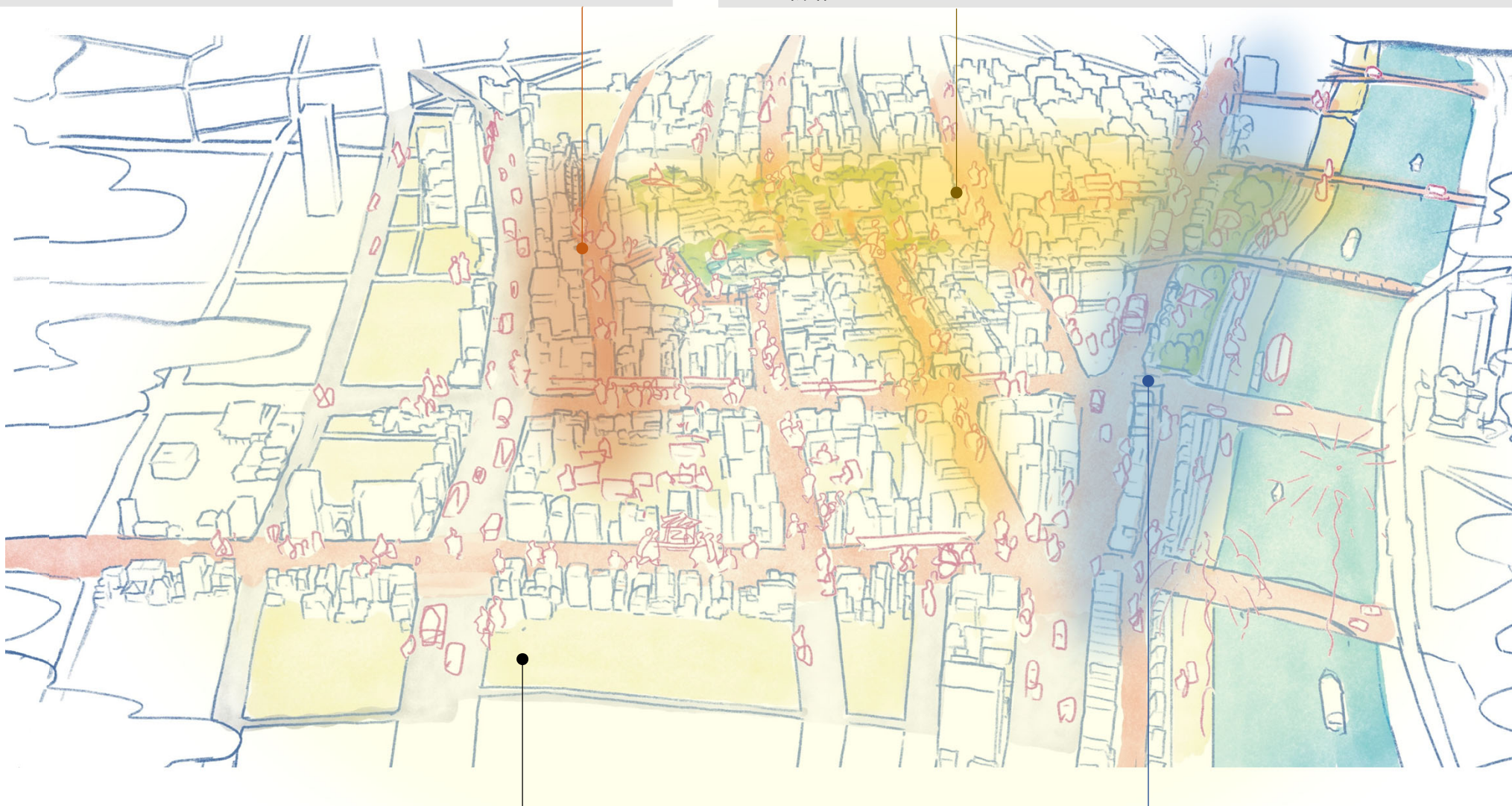
まちづくりプログラムの設定箇所

「まちづくりプログラム」は、空間として大きく再編される場所、現状の空間を維持しつつ質を高めていく場所の中でも、戦略的に取り組みを進めていく必要がある箇所を抽出し、整理しました。

これらのプログラムの推進により、地区内の回遊・地区外への広がりを促進していきます。

④ 賑わいの拠点の発展プログラム（六区ブロードウェイ周辺）
：戦略1・3・4・7・8

③ 歴史を紡ぐ軸の創出プログラム（東参道・二天門通り周辺、浅草寺周辺）
：戦略2・3・6・7・8



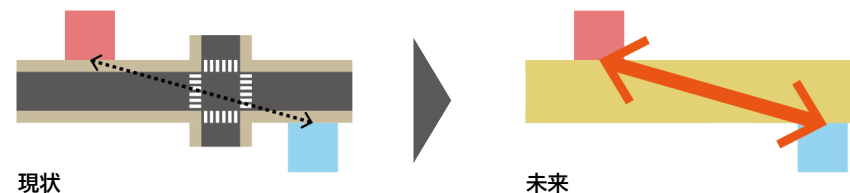
① 歩きやすい空間の拡充プログラム（浅草地区全体）
：戦略1・4・9

② 新たな回遊拠点の創出プログラム（浅草駅・隅田川周辺）
：戦略2・3・5・6

① 歩きやすい空間の拡充プログラム（浅草地区全体）

ありたい姿

- まちの再編にあわせ、歩行者空間の再編・創出が行われ、「歩きやすい空間」がまちのあちこちに広がっています。
- 訪れる人でいっぱいだったまちなかでは、混雑が解消され、快適な訪問・滞在ができるようになっています。
- 空間の利活用にまつわるイベントや社会実験が重ねられ、さまざまな形で歩いて巡ることの楽しさを感じることができます。

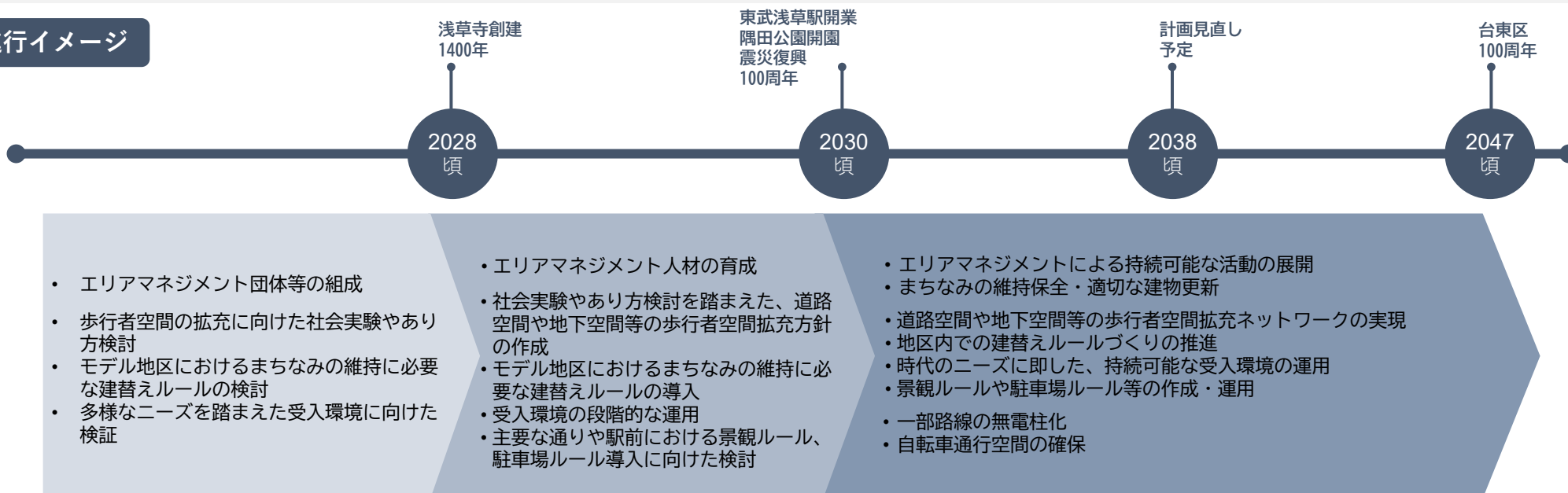


歩行者と車両の動線が錯綜し、過密な歩行者空間と滞留空間で構成されている状況を改善し、住む人・訪れる人が心地良く歩いて楽しめる空間の創出を図ります。

取り組み

- 賑わいとゆとりを共存させる、主要な通りや駅前での歩行者空間の拡充
- 平常時や災害時にも多目的に活用できる、駅前や主要な通り沿道におけるオープンスペースの整備
- 避難場所等へ安全かつスムーズに移動ができる通りの整備
- ストーリー性を感じることができる商店街ファサードの整備
- 通りの賑わいを維持・向上させる、まちづくりの担い手の育成
- 未来のまちの姿につながる公共空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 住む人・訪れる人・商いをする人が調和しながら過ごせる生活空間の確保
- まちなかのトイレ環境の充実と利用マナーの啓発
- 伝統ある文化と活気に溢れた、浅草らしさが感じられる屋外広告物等の景観ルールづくり
- 地区内の既存交通の整理と新たなモビリティ活用に向けたルールづくり

進行イメージ



雷門前の滞留空間構築（拡張）イメージ



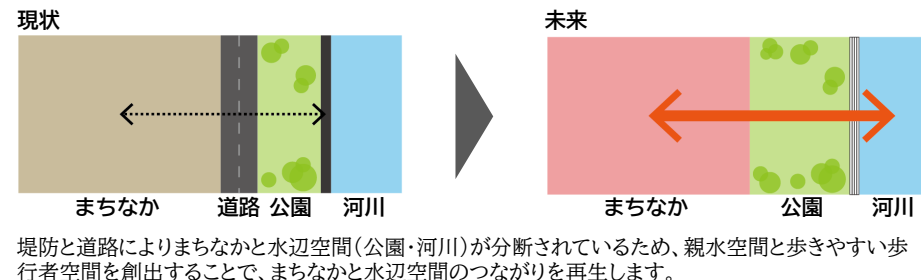
並木通りにおける歩行者空間の拡充



② 新たな回遊拠点の創出プログラム（浅草駅・隅田川周辺）

ありたい姿

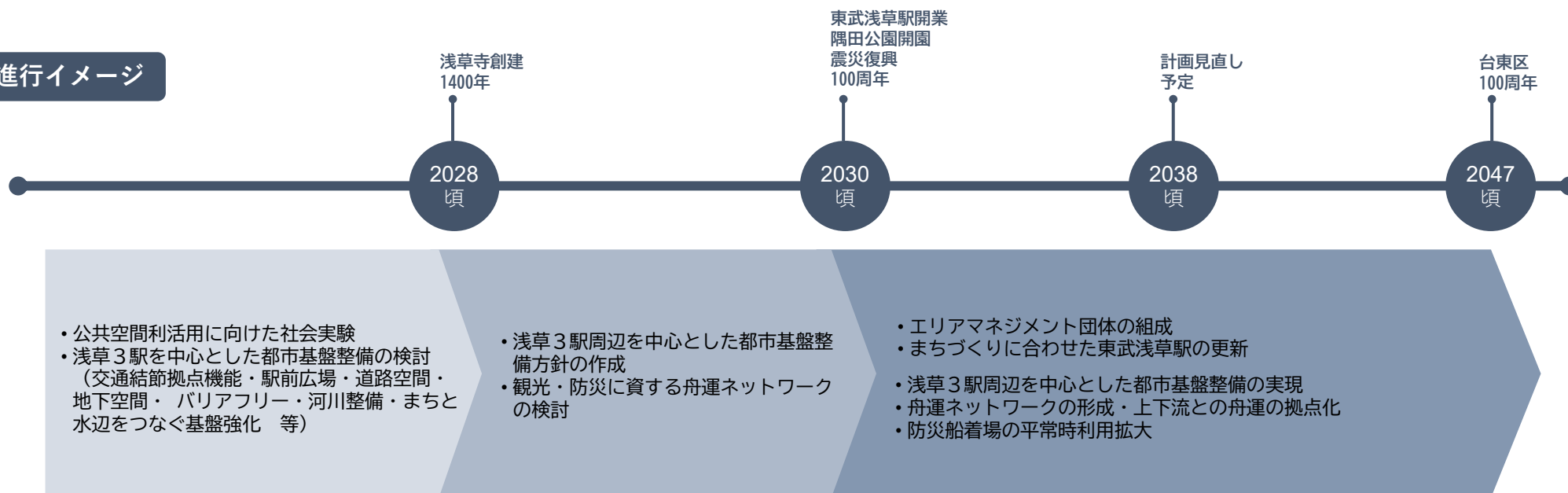
- まちの再編にあわせ、滞留空間の創出・交通結節機能の充実・拡充が行われ、これとともに浅草駅や地下施設等が更新された「浅草の新たな回遊拠点」として発展しています。
- 鉄道・バスといった公共交通の利用がしやすく、乗り換えの利便性が高い交通環境が整っています。
- 隅田川周辺では、水辺とまちが一体的につながった空間として多くの人がにぎわっています。
- 観光や平常時の憩いだけでなく、災害時にも避難ができるような空間が整っています。



取り組み

- 賑わいとゆとりを共存させる、主要な通りや駅前での歩行者空間の拡充
- 鉄道・バス・タクシー・新たなモビリティ等の交通結節機能の充実
- 浅草3駅(東武・Metro・都営)を中心とした、新たな都市基盤・回遊拠点整備の推進
- まちづくりに合わせた東武浅草駅の更新
- 平常時や有事の際の利用のしやすさに配慮した、地下空間の再整備
- 隅田公園や川沿い街区のまちづくりに合わせた、水辺とまちをつなぐ河川整備等の推進
- 水辺に訪れたいくなる、緑化の充実やベンチ、サイン等による水辺空間の質的向上
- 都市基盤整備に合わせた、観光バスや自転車等の都市施設の確保
- 舟運での広域的なつながりの強化
- 災害時における隅田川の舟運の活用
- 未来のまちの姿につながる公共空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 通りの賑わいを維持・向上させる、まちづくりの担い手の育成
- 水辺空間の利活用・維持管理に向けた民間主体の河川空間マネジメントの推進
- 水辺に居心地よく滞在できるイベント等との連携・PR促進

進行イメージ



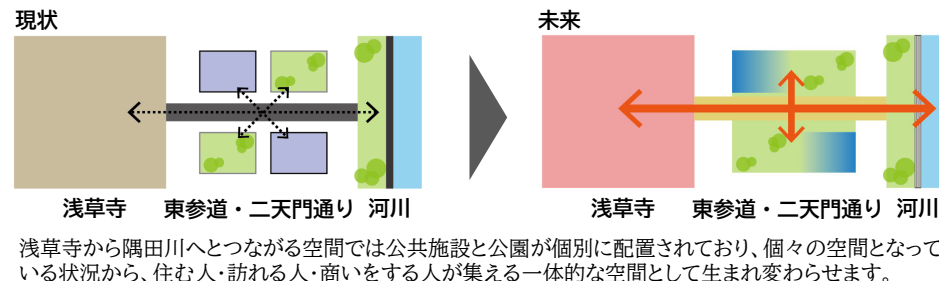


左写真出典：GoogleEarth

③ 歴史を紡ぐ軸の創出プログラム（東参道・二天門通り周辺、浅草寺周辺）

ありたい姿

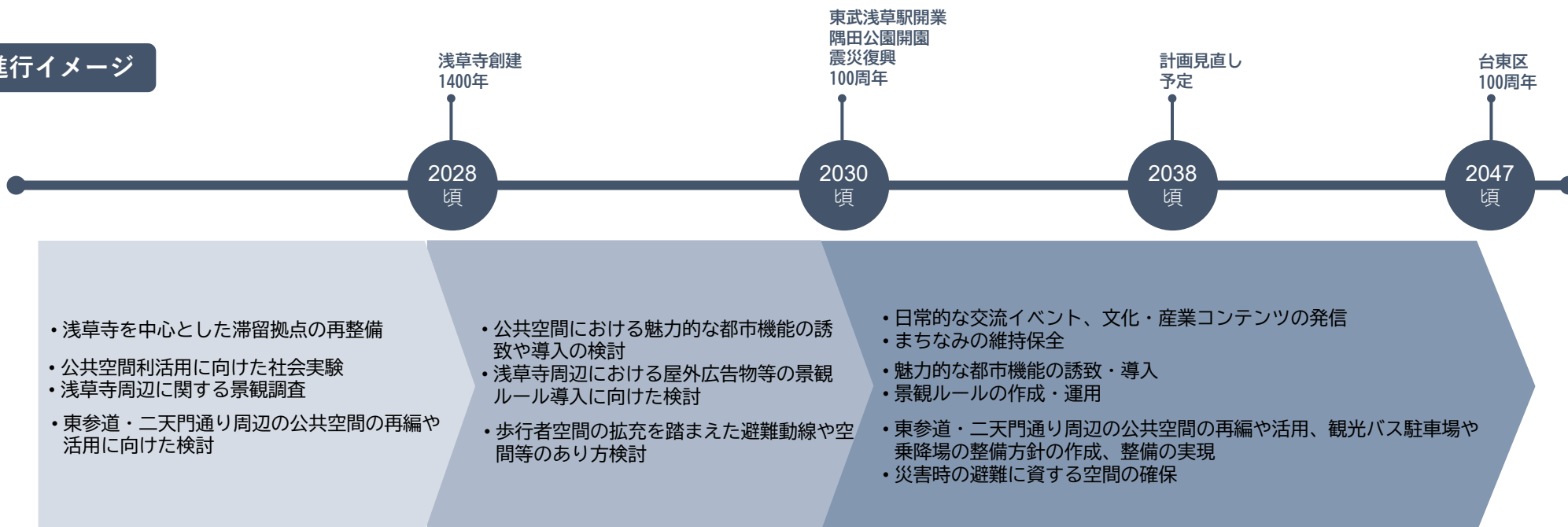
- 住む人や訪れる人が快適に回遊できる動線が整備され、「浅草の歴史を紡いできた二大空間（浅草寺・隅田川）を結ぶ東西軸」として発展しています。
- 浅草寺と隅田川の東西の往来を促進するような動線が確保されています。
- 二天門前や隅田公園近辺では、東西の往来を十分に受け止め、歩行者がゆったりと滞留できる空間が整っています。
- 沿道の公共空間の再編とあわせ、建物ファサードや屋外広告物の統一感ある景観づくりが進んでいます。



取り組み

- 1400年を超える歴史文化を伝える、新たな滞留拠点の整備
- 賑わいとゆとりを共存させる、主要な通りや駅前での歩行者空間の拡充
- 休憩や待合せなど多様なニーズに対応した滞留空間の充実
- 住む人・訪れる人・商いをする人にとって魅力的な公共空間・施設の再編
- 都市基盤整備に合わせた、観光バスや自転車等の都市施設の確保
- 避難場所等への安全かつスムーズに移動ができる通りの整備
- 未来のまちの姿につながる公共空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 伝統ある文化と活気に溢れた、浅草らしさが感じられる屋外広告物等の景観ルールづくり

進行イメージ



台東区民会館付近から東方向を望む



花川戸公園付近から西方向を望む



④ 賑わいの拠点の発展プログラム（六区ブロードウェイ周辺）

あいたい姿

- 地域による活動が活発に行われている、「賑わいのある西の回遊拠点」として発展しています。
- 興行や大衆芸能の中心地として、浅草のにぎわいを支えてきた取り組みが数々展開されています。
- 主要な通りでは快適に通行でき、人々の往来を十分に受け止め、歩行者がゆったりと滞留できる空間が整っています。
- 地区の西側を代表する観光拠点が生まれ、東側を訪れた人の集客も進んでいます。

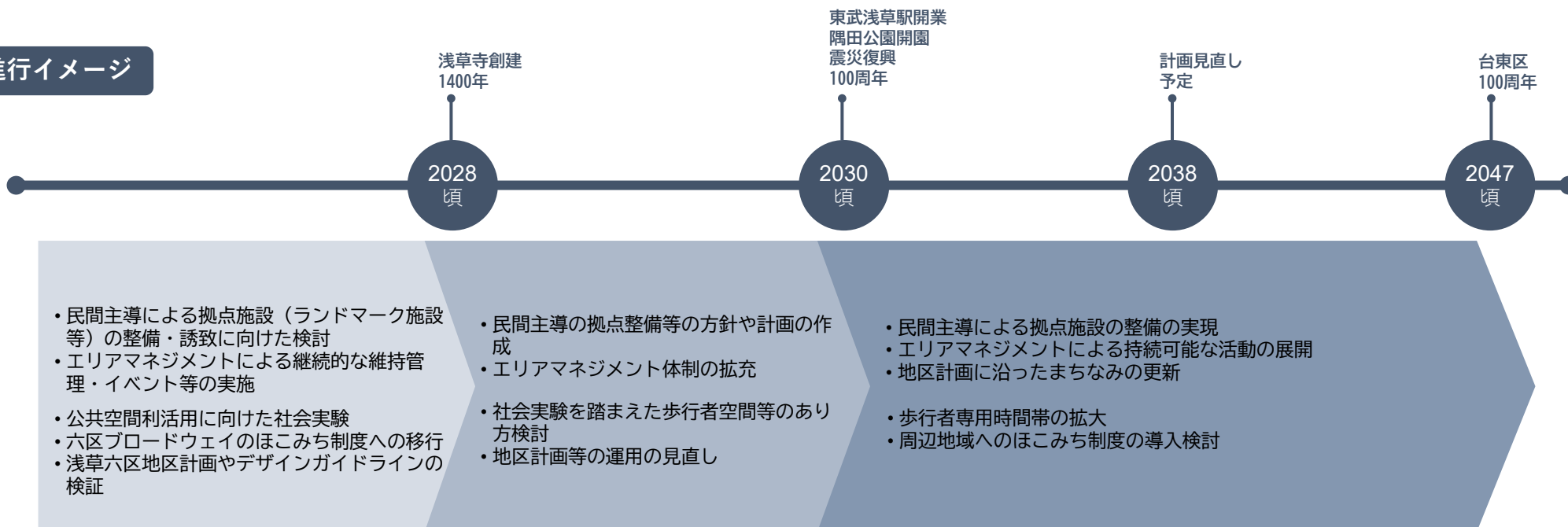


六区・ブロードウェイ通りのにぎわいを波及させるため、そこに交わる主要な通りと滞留空間を拡充し、興行や大衆芸能の中心地としてさらに発展させます。

取り組み

- 賑わいとゆとりを共存させる、主要な通りや駅前での歩行者空間の拡充
- 休憩や待合せなど多様なニーズに対応した滞留空間の充実
- 地区内外の個性ある資源に訪れたくなる、人々の往来や誘引性を高める設え
- ストーリー性を感じることができる商店街ファサードの整備
- 興行街の歴史を活かした地区のシンボルとなる滞留拠点の整備事業の推進
- 「芸の聖地」浅草の大衆芸能の文化を体験し、楽しめる場の充実
- 住む人・訪れる人・商いをする人が調和しながら過ごせる生活空間の確保
- 通りの賑わいを維持・向上させる、まちづくりの担い手の育成
- 未来のまちの姿につながる公共空間でのイベントや社会実験の継続的な実施
- 商店街等における人と人がつながる機会の創出

進行イメージ



セントラルスクエアから北方向を望む

興行街の歴史を活かした地区のシンボル
となる滞留拠点の整備事業の推進

賑わいとゆとりを共存させる、
主要な通りでの歩行者空間の
拡充

六区ブロードウェイと複数の通りでは、賑わいとゆとりを
共存させる歩行者空間の拡充が進んでいます。

すしや通りから北方向を望んだアングル

ストーリー性のある
商店街ファサードの整備

新たな公共空間の活用
に向けた実施（ほこみち）

すしや通りでは、新たな公共空間の活用が進み、
賑わいが広がっています。

まちづくりの「アイデア」

まちづくりビジョンの検討ステップにおいて、地域の方々より、まちの将来イメージにつながるご意見をたくさんいただきました。

Ⅲ・Ⅳ章に示す「取り組み」の他にも、地域の方々がいづか実現できたらよいと考えるまちづくりの「アイデア」をご紹介します。

観光

- 普段から「浅草がワクワクする」ことが大事
- 滞在時間の延長
 - ・ 食べる、歩く以外のコト消費を増やす
 - ・ 線から面の考え方で周囲に回遊を広げる
 - ・ 場所ごとにピーク時間をずらせばまちの負担は小さいのではないか
- 働く人々の満足度向上が大事：働く人の休憩場所、ランチを食べられる場所が必要
- ボランティアガイドのレベルアップ
- 浅草ならではの食文化を残していきたい
- 個店を活かした魅力づくりができると良い
- 地域の時代の変遷は重要であり、文化財は少なくとも暮らしや営みを残していきたい
- 賑やかさや静けさのある住環境のバランスを意識したまちづくりを進められると良い

住環境

- 地元・不動産事業者・新たな出店者等との地域のルールとの共有が必要
- 不動産事業者による地元への理解が必要になる
- お祭り等、新旧の住民が共存するコミュニティづくりが必要
- 住民同士の交流が求められるが、町会によるリードも必要になる

防災

- 観光客の避難受入れに向けたハード面の備えが必要
- 観光客の避難受入れ環境が必要

水辺

- 魅力的で楽しい水上交通を実現できると良い
- 水辺の魅力を活かした空間整備
 - ・ 人口が減る中でペット人口は増えており、隅田川の水辺はペット連れの方々が楽しめるような空間づくりができると良い。ペットを連れていける場所が地区内に増えると良い。
 - ・ 隅田川から水を引いて水路をつくる、瓢箪池を作る等のアイデアがあっても良いのではないか
- 以前行われた隅田公園オープンカフェ協議会で水辺の利活用に対する議論があったように、地域の意見を取り入れながら水辺空間のあり方を検討できると良い

交通

- 駅の更なるバリアフリー化が必要
- 思い切ったまちの拠点づくりが行えると良い

その他

- 時代の変化や最先端の技術等、様々なものを受け入れながらまちを活性化していくことが必要
- SDGsのような概念を持つことも重要。古いものを大事にし、そこから学ぶことが重要。修学旅行等でも学んでもらえると良いのではないか。
- まちづくりにおける持続可能な体制づくりが必要
- イベントや活動での安全面の意識を常に持つことが重要



浅草地区まちづくりビジョン策定委員会まちづくり部会でのワークショップの実施風景（令和5年7月24日開催）